

石巻健育会病院 リハビリテーション部

三浦理香 (リハビリテーション部 クラーク)

- 功 績 自身の介護スキルを活かして、リハビリクラークと病棟介護職員の一人二役を行い、人員基準維持に貢献した功績
- 推 薦 者 伊東貴広 (リハビリテーション部長)
- 推 薦 理 由
- ・地域包括ケア病棟に従事してもらうことで看護補助者配置加算の人員基準を確保でき、病棟全体の収益に貢献している。
 - ・リハビリのクラーク業務も今まで通り行ってくれているので、スタッフへの業務負担増はない。
 - ・患者さん、病院全体を考えての前向きな行動は、周りの職員にもよい影響を及ぼしている。

以上の点から、多大な実績と評価し、理事長賞候補に推薦いたします。

内 容

三浦さんは2017年10月よりリハビリテーション部のクラークとして勤務しております。

当初は書類整理や物品管理、データ入力など、事務処理を一人で担当。正確・迅速な処理で、部内の実務を支えてもらっていました。

リハスタッフの補助養成の一環として、三浦さんに車椅子移乗など実技の指導を行っていたところ、「教えてもらうだけではなく、自分のスキルとして身に着け、業務に活かしたい」と、自主的に介護福祉士実務者研修を受講。将来的に介護福祉士の受験も考えています。

当院も介護職員の人員配置確保に苦勞しており、特に人手のかかる病棟の入浴介助は、他の病棟の看護師・スタッフも応援に入ってぎりぎりですhiftを回すなど、全員で患者さんに週2回の入浴を提供しています。

三浦さんは、スモールミーティング等で他のスタッフから病棟の厳しい状況を聞き、「患者さんのため、病院全体のために、自分のスキルを病棟でも活かした勤務ができないか」と上司に相談。令和6年4月より、半日をリハビリクラーク業務、残り半日を病棟での介護業務にあて、ほぼ毎日入浴介助を担ってくれています。三浦さんの加入により、病棟も余力を捻出でき、厳しい状況を乗り切ることができ、感謝の声が多く出ています。

元々、処理能力が非常に高く、自分で考えながら仕事をするので、どちらの業務も手際よく、ミスもなく両立して頂いています。